

第 99 回日本豚病研究会・2021 年度日本豚病臨床研究会・
2021 年度日本養豚開業獣医師協会
第 11 回合同集会のお知らせ

事務局：（一社）日本養豚開業獣医師協会（JASV）

TEL：029-875-9090

FAX：029-307-8063

e-mail: pig.jasv@r7.dion.ne.jp

日本豚病研究会、日本豚病臨床研究会、日本養豚開業獣医師協会は、第 11 回合同集会を開催することとなりました。下記の通り、ご案内申し上げます。

記

日 時：2021 年 10 月 8 日（金） 10：00～17：00
開催形式：集合形式およびオンラインウェビナー形式
参 加 費：無料

参加方法は下記の 2 つよりお選びいただけます。

<会場での参加>

会場参加は定員がございましたので、事前申し込みが必要です。

場 所：つくば国際会議場 多目的ホール

定 員：100 名

申込〆切：9 月 24 日（金） ※ただし、定員になり次第締め切ります

開 場：9：30

申込方法：別紙申込み様式に必要事項をご記入の上、メールまたは FAX にて（一社）日本養豚開業獣医師協会（JASV）事務局までお申込みください。

お申込みいただきました方には、申込書受領後、随時 JASV 事務局より新型コロナウイルス感染症対策にかかるご案内（注意事項、体調管理シートなど）を送らせていただきますので、必ず連絡先メールアドレス（ない場合は FAX 番号）をご記入ください。
これらの対策にご協力いただけない場合は、当日会場に来られましても入場をお断りすることがございますので、あらかじめご承知おきください。

<オンラインでの参加>

別紙を参考に、下記 URL より、各自お名前、メールアドレスをご登録ください。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_hlMPIHo7TpKinjcVOo2CAA

登録 URL は各団体のホームページにも掲載しておりますので、そちらからご登録ください。

上記 URL からは、合同集会開催時間中も登録が可能です。
登録期限は特にございませんので、奮ってご参加ください。

＜第 11 回合同集会 オンラインからの参加方法＞

下記 URL をクリックし、事前登録を行ってください。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_hIMPIHo7TpKinjcV0o2CAA

クリックすると下記のような画面が開きますので、お名前とメールアドレスをご登録ください。

ウェビナー登録



トピック	第99回日本豚病研究会・2021年度日本豚病臨床研究会・2021年度日本養豚開業獣医師協会 第11回合同集会
説明	第99回日本豚病研究会・2021年度日本豚病臨床研究会・2021年度日本養豚開業獣医師協会第11回合同集会の申込用フォームです。
時刻	2021年10月8日 10:00 AM 大阪、札幌、東京

* 必須情報

名 *

姓 *

メールアドレス *

メールアドレスを再入力 *

登録時に提供する情報は、[アカウントオーナー](#)およびホストと共有されます。アカウントオーナーとホストは、その情報を規約とプライバシーポリシーに従って使用・共有できます。

登録を押すと下記が表示されることがありますので、チェックボックスをクリックして登録します。

☐ 私はロボットではありません


reCAPTCHA
[プライバシー](#) - [利用規約](#)

登録

下記のような表示が出れば、登録完了です。
メールでも登録完了通知が届きます。

ウェビナー登録が完了しました

トピック	第99回日本豚病研究会・2021年度日本豚病臨床研究会・2021年度日本養豚開業獣医師協会 第11回合同集会
説明	第99回日本豚病研究会・2021年度日本豚病臨床研究会・2021年度日本養豚開業獣医師協会第11回合同集会の申込用フォームです。
時刻	2021年10月8日 10:00 AM 大阪、札幌、東京  カレンダーに追加▼
ウェビナー ID	836 9069 1983

ウェビナーに参加するには

PC、Mac、iPad、iPhone、Androidデバイスから参加できます：

このURLをクリックして参加してください。[https://us06web.zoom.us/j/83690691983?
tk=EQiQACqRsz4gwYyoCDaxVVOQvg_IKEOobl2wC8o8Qrs.DQMAAAATffQdjxZWdjN5RW1NbVJfZU1LYWxmclD4X1Z3AAAAAAAAAAAAAAAAAAAA&pwd=NGx3c0ZsNG1oRWIsL1VtNGlZ20txZz09&uuiid=WN_hlMPIHo7TpKinjcVOo2CAA](https://us06web.zoom.us/j/83690691983?tk=EQiQACqRsz4gwYyoCDaxVVOQvg_IKEOobl2wC8o8Qrs.DQMAAAATffQdjxZWdjN5RW1NbVJfZU1LYWxmclD4X1Z3AAAAAAAAAAAAAAAAAAAA&pwd=NGx3c0ZsNG1oRWIsL1VtNGlZ20txZz09&uuiid=WN_hlMPIHo7TpKinjcVOo2CAA)

この登録をキャンセルするには

登録はいつでも[キャンセル](#)できます。

開催前日、当日 1 時間前にも同様に案内が届きますので、メールの「ウェビナーに参加」をクリックしてご参加ください。



JASV事務局様、

第99回日本豚病研究会・2021年度日本豚病臨床研究会・2021年度日本養豚開業獣医師協会
第11回合同集会 にご登録いただき、ありがとうございます。このウェビナーについての情
報は以下で確認できます。

第99回日本豚病研究会・2021年度日本豚病臨床研究会・2021年度日本養豚開業獣医師
協会 第11回合同集会

日時	2021年10月8日 10:00 AM 大阪、札幌、東京
ウェビナー ID	836 9069 1983
パスコード	117839

質問は以下へ送信してください: pig.jasv@r7.dion.ne.jp。
登録はいつでも[キャンセル](#)できます。

パソコン、スマートフォン、タブレット端末からご覧いただけます。
当日は、参加者の皆様のカメラ画像は表示されないウェビナー方式です。
途中参加も可能ですので、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。
当日質疑の時間を設けますが、オンラインからのご質問は口頭またはチャットでお受けいたしま
す。当日冒頭に質問方法をご案内いたします。

日 程

開 会 (10 : 00～10 : 05)

統一テーマ「豚熱の発生防止に向けて」 (10 : 05～14 : 15)

総合司会：石川弘道 (有)サミットベテリナリーサービス)

座長：深井克彦 (農研機構 動物衛生研究部門)

1. ワクチンを用いた豚熱の発生防止対策の基本 (10 : 05～10 : 35)

北海道大学大学院獣医学研究院 迫田 義博[JASV]

2. 疫学調査から読み解く今般の豚熱発生状況 (10:35～11:05)

農研機構 動物衛生研究部門 山本 健久[豚病研]

3. 野生イノシシにおける豚熱の現状と対策 (11:05～11:35)

農林水産省 消費・安全局 動物衛生課 永田 知史[豚病研]

4. 豚熱発生事例 64、65、67 例目に関する JASV の検証と、これ以上養豚場で豚熱を発生させないための提言 (11:35～12:05)

(一社) 日本養豚開業獣医師協会 呉 克昌[JASV]

[昼休み (各自で昼食をお取りください) 12 : 05～13 : 15]

5. 2020 年の沖縄での豚熱発生後の防疫対応と課題～養豚専門獣医師としての取り組み～

(13:15～13:45)

(株)沖縄県食肉センター 大城 守[豚臨研]

6. 豚熱発生農場の再建に向けた取り組み (13:45～14:15)

(有)あかばね動物クリニック 水上 佳大[豚臨研]

7. 総合討論 (14:15～15:15)

[休憩 15 : 15～15 : 30]

一般口演 (15 : 30～16:55)

座長：小池郁子 (エス・エム・シー(株))

1. 最近の国内における PRRS ウイルスおよび豚サーコウイルスの遺伝的多様性について (15:30～15:50)

農研機構 動物衛生研究部門 高木 道浩[豚病研]

2. 精液パックが原因とみられる極端な受胎率低下事例 (15 : 50～16:10)

インターファーム(株)東北家畜診療所 丸山 哲也[豚臨研]

3. 浮腫病ワクチンの効果と抗菌剤使用量低減への期待 (16:10～16:30)

(有)あかばね動物クリニック 伊藤 貢[JASV]

4. 質疑応答 (16:30～16:55)

閉 会 (16 : 55～17 : 00)

講演要旨

○統一テーマ「豚熱の発生防止に向けて」

1. ワクチンを用いた豚熱の発生防止対策の基本

迫田 義博（北海道大学大学院獣医学研究院）

2018 年 9 月に国内で豚熱（CSF）が発生した。原因である CSF ウイルスはイノシシによって急速に拡大し、2019 年秋以降、ブタに対するワクチン接種が進められている。本ワクチンは生ワクチンであり、母豚からの移行抗体を意識して、30 日～40 日齢の子豚に、また母豚についてはその後 2 回の追加接種をするプログラムが 20 世紀に確立している。移行抗体が適度に下がったワクチン接種適期に注射すると、移行抗体によるワクチンブレイクが豚群の一部で認められるが、85% 近くは免疫され、群としての集団免疫により流行は広がらないという理論で接種が続けられている。先人の知恵と経験を十分に勉強した上で、CSF ウイルスから豚を守るためのワクチン接種の徹底とその評価の継続が必要である。

2. 疫学調査から読み解く今般の豚熱発生状況

山本 健久（農研機構 動物衛生研究部門）

国内の豚熱（CSF）の発生については、野生イノシシでの感染拡大に伴い、農場の衛生管理の徹底のみによる感染防止が困難となったことから、農場でのワクチン接種が実施された。イノシシからの感染リスクがある地域では、すでに農場でのワクチン接種が実施されているため、最近の CSF の発生は、ワクチン接種農場での摘発となっている。ワクチン接種の開始以前から、一連の CSF 発生農場では、発生県による、疫学関連農場を特定するための調査に加えて、国と発生県の担当者及び研究者が参画して、摘発直後の現地調査を含む疫学調査が実施されている。この疫学調査では、当該農場への侵入要因や当該農場からの感染拡大要因を検討するとともに、ウイルスの侵入要因や農場内の感染拡大要因を検討するため、豚舎の立入調査、飼養豚の健康観察、飼養管理者への聞き取り調査等が行われる。また、当該農場では、殺処分が行われる前に、全ての豚舎の一定数の飼養豚の血液検査や、飼養環境からのウイルス遺伝子の検出のための採材が行われる。これらの調査の結果から、ワクチン接種農場での発生について、どのような特徴が認められているのかを紹介する。また、イノシシでの感染拡大状況や、国内で分離されている CSF ウイルスの解析結果についても紹介する。

3. 野生イノシシにおける豚熱の現状と対策

永田 知史（農林水産省 消費・安全局 動物衛生課）

2018 年、26 年ぶりに飼養豚で発生が確認された豚熱（CSF）は、野生イノシシでも発生が確認され、その後、感染確認地域は拡大し、現在、農場での主な CSF 発生の原因とみなされている。野生イノシシでの CSF 対策は、(1)サーベイランス：遺伝子検査等により野生イノシシでのウイルス浸潤状況を把握し対策に反映、(2)捕獲の強化：野生イノシシ個体数を減らしてウイルス拡散を抑制、(3)経口ワクチン散布：野生イノシシに免疫を付与して感染時の排出ウイルス量を低下や感染障壁とさせることで、野生イノシシにおける感染を抑制、の 3 点を中心に実施しており、最近では CSF 陽性率が顕著に低下している県もみられる。

経口ワクチンについては、散布から 2 年半が経過する中、ワクチン摂取個体から出生した個体等での ELISA での抗体検出力の低下の可能性を考慮しつつ、環境、野外ウイルスの性状等を踏まえた効果を検討し、散布方法等の改善を進める必要がある。

4. 豚熱発生事例 64、65、67 例目に関する JASV の検証と、これ以上養豚場で豚熱を発生させないための提言

呉 克昌（（一社）日本養豚開業獣医師協会）

2021 年に豚熱（CSF）ワクチン接種養豚場で CSF が発生した事例のうち、当協会が詳細な情報を知りえた 3 事例について、さらなる検証を実施したのでその詳細を報告する。また、そこから得られた情報をもとに、これ以上養豚場で CSF を発生させないために提言できることはあるかについても検討を行ったので報告する。

5. 2020 年の沖縄での豚熱発生後の防疫対応と課題～養豚専門獣医師としての取り組み～

大城 守（沖縄県食肉センター）

2020 年 1 月 8 日、沖縄県では 1986 年 10 月以来 33 年ぶりに家畜伝染病である豚熱（CSF）の発生が確認された。本県特有の養豚事情を背景に沖縄本島全域への感染拡大という危機的状況が危惧されたが、半径約 3km 圏内の封じ込めに成功し、3 月 12 日の発生を最後に一応の終息をみている。本病発生に対する防疫においては、日本豚病臨床研究会が企画・開催したセミナー、そして本会メーリングリストにより得られた情報および助言が現場対応に大いに役立った。今回、我々は発生直後から自社農場に対する取り組みと併せて、県域防疫に関して補完的な取り組みを行ったので、その対応と課題について報告する。

6. 豚熱発生農場の再建に向けた取り組み

水上 佳大（㈲あかばね動物クリニック）

豚熱（CSF）の発生が認められた農場では防疫措置により、飼養豚全ての殺処分がなされた。当該農場の生産者は養豚業再開のために豚の再導入を計画した。飼養豚がゼロという機会を有効利用し、養豚で問題となっている CSF や感染症の侵入を防ぐための仕組みを、関係各所と連携して作り上げた。また、若い生産者や後継者が将来的に生産を続けていくことができる生産計画を立てた。

CSF 発生農場の生産再開に向けた取り組みの始まりから実際に肥育豚を出荷するまでの一連の流れを紹介する。

○一般口演

1. 最近の国内における豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルスおよび豚サーコウイルスの遺伝的多様性について

高木 道浩（農研機構 動物衛生研究部門）

豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）や豚サーコウイルス関連疾病（PCVAD）は我が国を含めた世界の養豚産業において経済損害を与える疾病としてあげられる。国内では 1990 年代からこれらが問題となり、30 年近くが経過しているが、ワクチン接種などにより病態や被害は過去と比較して軽減はしているものの、両疾病ともウイルスが主な原因であり、流行ウイルスの遺伝的多様性が認められ、時として甚大な被害をもたらしている。今回、我が国におけるこれまでの PRRS ウイルスおよび豚サーコウイルスの遺伝的多様性について解析した結果を紹介する。

2. 精液パックが原因とみられる極端な受胎率低下事例

丸山 哲也（インターファーム㈱東北家畜診療所）

今日の大規模企業養豚においては、人工授精（AI）の効率的利用は事業経営を継続するうえで必要不可欠な技術である。また、近年の AI 技術の進歩とともに、関連する器具機材の改良も大きく進んできた。

希釈精液を封入する容器についても、以前はプラスチック樹脂製のボトルタイプ（精液ボトル）

が主流であったが、普及が進む精液自動分注機への対応、及び保管時の省スペース化の観点からビニールパックタイプ（精液パック）を採用する農場、AI センターが増えてきている。

今回、当社特定事業所の複数の農場において、精液パックが原因となって極端な受胎率の低下が発生した事例について紹介する。

3. 浮腫病ワクチンの効果と抗菌剤使用量低減への期待

伊藤 貢（㈲あかばね動物クリニック）

浮腫病は、農場に病原体の大腸菌が侵入すると根絶が難しい疾病の 1 つである。その対応として①飼養環境の改善、②抗菌剤、③酸化亜鉛等の無機亜鉛の投与、④機能性飼料添加剤の投与、⑤飼料形状の変更（マッシュ形状）であった。今回浮腫病のワクチンが発売され、新しい対策としてその効果が期待される。

発売に先立ち浮腫病ワクチンの効果と抗菌剤、無機亜鉛の使用の減少につながるかを検証したので報告する。

第 99 回日本豚病研究会・2021 年度日本豚病臨床研究会・

2021 年度日本養豚開業獣医師協会

第 11 回合同集会 会場参加申込用紙

オンライン参加を希望される方は、案内 1 枚目に記載の URL より各自でお申し込みください

お名前	
ご所属 (会社・団体名)	
所属団体名 (所属されているものすべてに☑を付けてください)	☐ 日本豚病研究会 ☐ 日本豚病臨床研究会 ☐ (一社) 日本養豚開業獣医師協会 (JASV) ☐ 上記いずれにも所属していない
メールアドレス	
電話番号	
FAX 番号 (メールアドレスのない方は必ずご記入ください)	

申込先：(一社) 日本養豚開業獣医師協会 (JASV) 事務局

FAX 029-307-8063

メールアドレス pig.jasv@r7.dion.ne.jp